

## グローバル・ジャスティス 第65回

# 「封城(ロックダウン)」と「自粛」のはざままで —COVID-19対策の歴史的文脈—

## 飯島 渉(青山学院大学 教授)

感染症の歴史の専門家として知られる飯島渉氏を迎えて、グローバル・イシューとしての感染症対策の歴史を、東アジア中心に振り返り、併せてコロナ・パンデミック時代における文理融合的な知の創発の可能性を探る。

**定員40名・事前予約制**

日時：2021年7月8日(木)  
18:00 - 19:30

会場：同志社大学烏丸キャンパス  
志高館 SK118 教室



1960年生まれ。青山学院大学文学部教授。「感染症の歴史学」を専門とし、東アジアのペスト史やマラリア史を研究してきた。『感染症の中国史』（中公新書、2009年）、『高まる生活リスク—社会保障と医療』（共著、中国的問題群、岩波書店、2010年）、『感染症と私たちの歴史・これから』（清水書院、2018年）など。長崎大学熱帯医学研究所客員教授、獨協医科大学特任教授、目黒寄生虫館理事。感染症対策の資料を整理・保存する「感染症アーカイブズ」(<https://aidh.jp/>)の代表もつとめる。

主催：同志社大学グローバル・  
スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930  
e-mail: [ji-gs@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-gs@mail.doshisha.ac.jp)